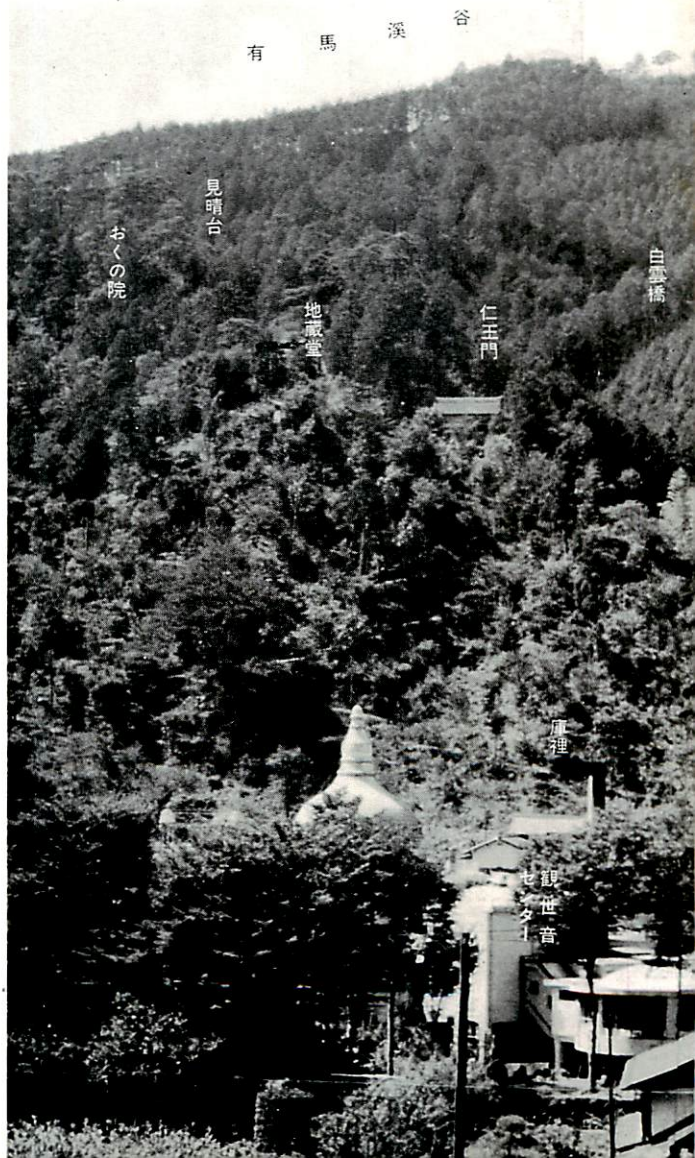


白雲山

鳥居観音のしおり

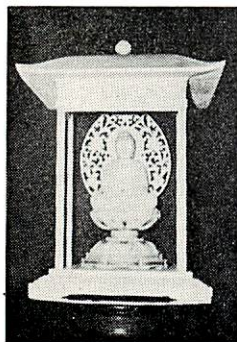
四月一日発行
2号



タイ 印度 巡礼 記

平 沼 桐 江

今から
十三年前
に第三回
世界仏教
徒会議が
ビルマに
開催され
た時、私
は高階瑞
仙猊下団
長のもと
に副団長
として随
行しまし
た。



ビルマに土産の仏像（二尺五寸）現在平和パオタに安置してある桐江作



ビルマに於ける桐江夫妻

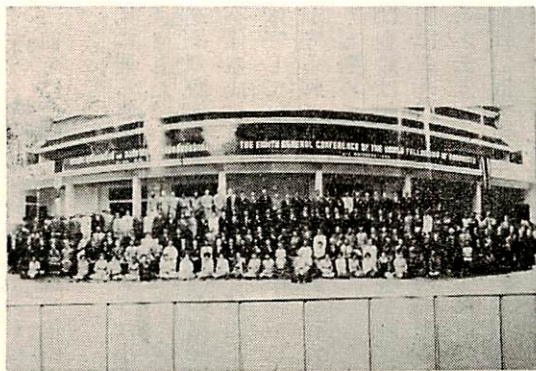
タイの大会

今度の第八回世界仏教徒大会にも高階猊下が日本代表として御出席になるので私供にも「行かないか、ビルマの時のようにはお世話は出来ないが」とのおさそいを頂き、私は七十五才と言う老齢ではと思ひましたが猊下が九十一才で御出席なされる御決意に感激してお供をする事に決心しました。併し此度の旅行はなかなかの難行苦行でした。

十一月五日から一週間の大会議場は、タイ国の首都バンコックから飛行機で二時間ばかりの北方の山奥でビルマ、ラオスの国境に近い、人口五万位のチェンマイと云う都市でした。チェンマイは、バンコックの近代都市とは対照的な、日本で云へば京都

の様な静かな古都であるだけに八百年前後の面白い形のお寺や塔が沢山あって異国情緒ゆたかな処です。

大会当日は日本代表五十六人が日の丸のマーク付きのお袈裟をつけて全日本仏教会の旗を先頭に



各国代表の記念撮影

整然と入場したのは大変人目を引いた様でした。会場には老万人位入場していましたが、日本の墨染の衣以外は皆黄色の衣ですので数十ヶ国の人が集っているとゆうような国際的な色彩の刺激は全くありませんでした。

会議は各国から提案された諸議案を各分科会で検討し総会で決議したものを国連其他の關係国に要請すると言う権威あるものです。

日本からの提案は『仏陀の慈悲の大精神を以て世界に真の平和の招来を呼びかけよう』と言う件でした。

其の直後十二月初旬バンコックで開かれた、亜細亜体育大会のあの華かな行事と比較して仏教徒大会が地味に見えるのは宗教の立前として止むを得ないとしても、何だか仏教が時代から取り残されそうな気がして淋しく感じます。

タイ国の仏教

タイ国は勿論、南方の国々の多くは小乗仏教で

あります。タイ・ビルマ等は仏教が国教で国王も高僧の前では最敬礼をされる程の權威を持つてゐます。

タイに居る日本僧から次のような小乗仏教の話を聞きました。

『タイの僧侶は十重禁戒の内の第一不殺生戒、第二不偷盜戒、第三不邪淫戒、第四不妄語戒の四戒は厳守している。第五の不酤酒戒はよくわからないが守られて居ると思う。其他百六十の戒をも守ろうと勉めて居る。』

僧は金銭は勿論時計も持つ事を許されないのだから朝未明に起き、辺りが見え初めて来ると托鉢に出かけると云う——全く昔乍らの日時計である。そして午前は二回食事をするが正午を過ぎるとお茶も飲まない！夜は座禪をして色々の問題と取り組む、即ち本来空である人間が六根（眼、耳、鼻、舌、身、意、）により（色、声、香、味、触、）等にあやつられて自我に執着し其為、三毒（貪欲・瞋恚・自己執着）とか五欲（財宝欲、色欲、衣食住欲、名譽欲、睡眠欲）、等により自ら自身を

焼いて苦しみ無用の争を繰り返して居るのを何とか征服しようと思想を練るのである。

たとえば女の事で煩惱が起ると、此の女の数十年後は鼻汁をたらす皺だらけの婆さんになる。その様な不潔なものに執着し苦しむ事の馬鹿馬鹿しさを自問自答して此の誘惑をたち切ろうとする様な厳しい修業をする。托鉢に出ても女性から直接物を受取る事が出来ないのだから其為用意している布を地面に敷いて其の上に置いて貰って受取るのだ。

何しろ国民の九十%が仏教徒であつて僧が戒を破りたくても人々がこれを許さない程に習慣づけられて居る。たとえば女性は僧侶の衣にふれると罰が当ると云うて近づかないし僧には午後は食物は勿論お茶も進めない位厳しいので僧も戒を守らざるを得ない。このように僧の修業は実に厳格なのでベトナムで行はれた焼身自殺とか断食に依りミイラとなる事もあえて成し得るのである。

又結婚前一年間位は必ず僧となり戒を守る修業をしてゐる。

日本でも、若し之が実行出来たら非行少年の問題は解決するだろう。

だから小乗仏教僧は日本の様な大乘仏教は妻を持ち酒を飲み肉を食うので墮落して居ると云うている。併し大乘仏教僧がこうして大衆にとけこんで布教指導し其の時代に乗りおくれぬよう努力をして居るのに対し小乗仏教の様に社会と絶縁して自己中心主義修業に専念して居るのと比較して見ると、どちらにも一長一短があるように思われる』と云うお話をしてくれました。

たまたま私は托鉢の僧に出合ったが仏教徒から布施を受けてもお礼一ツ云わないのでいかにも尊大ぶって居る様に見えたが僧の顔を見ると「布施をする喜びを与えたのだ」と云う大慈悲の相が見えて居り私も知らず知らずのうちに合掌する気持ちになりました。

チエンマイの色々

チエンマイの町を見物して歩いた折の事です、屋台店で色々と不思議な食べ物を売って居る

ので見ていると腰掛を出して「食べてみる」と進める人の好い親しみのある態度です。

又お寺をのぞくと僧や信者がおつとめをしていて、私達を見ると祭壇の前に座らせてくれると云うなかなかの熱心ぶりです。

又或る民家を見せて貰いましたが、床下七尺位もある家の階段を昇って一階に入りますと珍客入来とばかり大変親切にもてなしてくれます。これは中流以上の家庭らしく食堂も寝室もあります。雑然として汚いのです。只感心したのは、どの家でも国王夫妻の額が懸って居りますのと仏壇は家の中心にあって家族中がいつも親しんでいるようです。

共産圏では強制的に指導者の写真を掛けさせておりますが民主国のタイでも国民自ら国王の写真をかかげているのを見てほほえましく感じました。

日本でも皇室の写真をかかげている家もありますが未だ国民が何となく遠慮している様な雰囲気が見えてはがゆく思います。

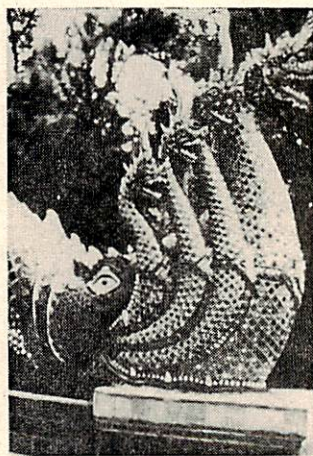
チェンマイでも三十四、五度と云う暑さなので夜食は野天の一流レストランに案内してもらいましたがローソクの灯でマラリヤ蚊の心配をしなから純タイ料理のとても辛い御馳走で皆閉口していました。

其時暗い庭の向い側のテーブルから「仕合せなら手をたたこう」と手をたたいて歌っている日本人二十人ばかりがいましたがこれは名古屋の前田建設会社の人達で数年前からタイの山奥でダム工事に従事しているグループで久し振りに町に出て来て慰安をしているとの事でした。

高階猥下はこの人達に対し『どうか此の国に日本精神の道を開いてやってください』とあいさつをなされたのは、さすがにと感服いたしました。

チェンマイの西方七百メートル位の山頂に、美智子妃殿下がお泊りになったと言う王様の別荘があります。庭は南国の色々な花でうづまり実に美しく静かな別荘でした。

此の辺りでは蕃人其のままの服装をしていたが写真に入ってくれて旅情を慰めてくれました。



石段の竜の手すり

ここから少しはなれた所に八百年前に建てられたと云う仏舍利塔を中心とした美しいお寺があります。殊に三百余段の石段の両側には七頭の竜がかざられ其の胴体は波うって上り尾の先が頂上に達して手すりの役をしている美事なものです。

其他町中に色々の古い珍らしい形の寺院や城壁等沢山ありサムロー（二人乗リンタク）にて見物して廻りました。

バンコック

エメラルド寺院の御本尊は六十センチ位の大き

さのエメラルドで出来ている釈迦牟尼仏ですが、エメラルドはダイヤモンドと同じ価値のある宝石と聞いておどろきました。

又或る寺の御本尊は五噸半もある純金仏です。

この純金仏は外敵から守るため、土で其の上を覆ってかくしてあったのが六十年前の大地震で倒れて頭部がはがれ内部の金色が見えて来たので驚いてこのお寺に安置したとの事でした。其のそばに剥がした外側も置いてありましたがセトモノのようにかたいものでした。王宮も善美を尽した建物であります。そこには先代の王様に仕えた大勢の女達が終生外に出られない掟の為め手仕事をし乍ら余生を送っている姿があわれです。

黄金の寺は代々の王様の葬式等の儀式をする寺で目もくらむばかりの金ピカの尖塔が林立しています。

灼熱の陽を刎ね返し黄金の塔（平沼とみ子）

ジャイナ教の大理石の美しい寺や暁の寺院と言う陶器のモザイク張りのかがやくお寺とか他にも見るべきものが数多くあります。



モザイク張りの暁の寺院前はメナム川

ビルマ、カンボヂマ、ベトナム、ラオス等の国々は国境が一部平原続きなので互に侵略し合つて興亡の変化の甚だしい所です。

たとえばお寺の彫刻が未完成のまま逃げて了つた跡とか宗教が変る度に本尊を削り取つて他の宗

教の本尊を入れた跡もあり、又貴重品は勿論婦女子、奴れいに至るまでお互に掠奪し合った様であります。

タイの博物館内には実に高価なものがあるが、それ等はカンボチャから掠奪した物が大変多いのだとカンボチャ人は言ってるそうです。この有様を見て日本の歴史に比較して日本の有難さを感じました。

ただ東南亜細亞諸国の中でタイだけが独立を保ち得たのは国民団結の力とは言え珍しい事だと



水上マーケット見物中の船中で高階禪師と帽子をとりかえてかぶっている桐江

思われます。

其他小舟に分乗して水上マーケットやジャングルのような所を航行したのもなつかしい思い出であります。

印 度

五日間でタイ国と別れて大東亜戦争で二万人の戦死者を出したと言う名高いインパール山脈のジャングルの上を飛行機の中で合掌して冥福を祈り乍らインドのカルカッタに着いたのは八日の午後でした。

カルカッタ

カルカッタは人口八百万と云う大都市だが、其中の二〇％は家を持たないルンペンとの事では是は氣候の暑い故もありませうが歩道の上で博奕をしたりゴロゴロと寝ている有様は誠に異様な風景です。

理髪店等も皆露天営業であります。又掏摸と乞食が多く、町を歩くと乞食がぞろぞろとついて来

て何ともうるさい限りで、又用心して居てもいつの間にか拘摸に何か取られて居ります。

カルカッタには寺院も沢山あり、印度美術の縮図と思われる様な広大な博物館とか一本の木で三十メートル四方にも拡がっているパニヤンツリー（タコの木）や人が二、三人も乗れそうな大きな蓮の葉のある池、或は六百種に余る椰子の森等珍らしい樹木の多い植物園も一見の価値があります。

大理石に宝石や色ガラスの象眼を散りばめた恰も夢の国の様なジャイナ教の寺の本尊様はダイヤモンド十一カラットの目玉がはめ込まれてあります。又各宗教の建物の特長を取り入れたと云う珍らしい大寺院もありました。

私が鳥居観音を建立するに当り藤原時代の建築様式に印度、中国、や昭和の文化も取り入れて設計したのは遠い未来にも昭和時代の建築物であると言ふ事が判る様に致し度い考えからであります。自然其の設計には無理もあり批判される面も多し事だろふと思つています。

仏 跡 巡 拜

仏教の三大行事は降誕会（四月八日）、成道会（十二月八日）、涅槃会（二月十五日）であります。シッタルタ太子が誕生されたのはネパールのルンビニーですが、ピサの関係上参拝出来ませんでした。

又北辺の靈地はバキスタン、中国等との国境に近いため汽車の窓を開ける事や駅で写真をとる事も禁じられていました。日本人は中国人に似ていて中国のスパイと間違えられる危険があるので単独行動せぬようにと注意を受ける等戦時状態の様な緊張した空気でした。

ところが私共一行は日の丸の旗のついたお袈裟をかけているので日本人と云う事がわかり笑顔で迎えてくれました。嘗て日本が英米露の国々から軍縮を強要されたり石油其他の物資を封鎖されたので、このままで行けば日本は戦わずして自滅するか或は戦うかの外なく遂に無暴な大東亞戦争に迄発展して二百余万の貴重な人命を犠牲にして

ったのですが、日本のこの大犠牲により東南亜其他の諸国の独立のきっかけとなった事を彼等は知っていて内心日本に好意を寄せているのだとガイドが説明してくれましたが、お蔭で私共は現地の人々から親しまれ肩身の広い旅行が出来た事を英霊に感謝をささげました。

ブダガヤ

シッタタ太子（後の釈迦如来）は生、老、病死の四苦と云う人生の不安から人間を救済し度いと決意して二十九才の時王城をぬけ出し、バラモンの荒修行をなされたが其のため瘦せ衰えて了ったのです。そこで太子は肉体だけを苦しめると精神も共に衰えて是では宇宙の真理を悟り人間の苦悩を断ち切る事は出来ないとなつて山を下り、ニレンセン河で体を清め、折りから村の娘の捧げた乳粥を吞まれて元気づき、ブダガヤの菩提樹の下に静座して瞑想に入られました。

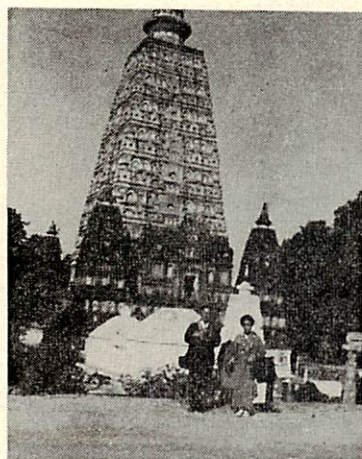
この時の精神的の誘惑の様は仏画にある弓矢刀剣をふり上げている悪魔や妖しき美女等がお釈迦

様をとりまいて修業のじゃまをしてゐる絵で皆様御存知の事と思います。

このような睡眠、恐怖、愛欲、孤独、其他の苦痛と戦いつつ遂に暁の明星の大きな耀きを見て豁然として悟りを開かれ仏陀釈尊となられました。この時御年三十五才でした。

明星は頭上に輝き明け初めぬ（平沼とみ子）

このブダガヤには立派な塔と結跏趺坐されたと言ふ菩提樹下の金剛宝座や水浴をなされたと言ふ池が現存しています。



八十年前に掘り出されたブダガヤの大塔

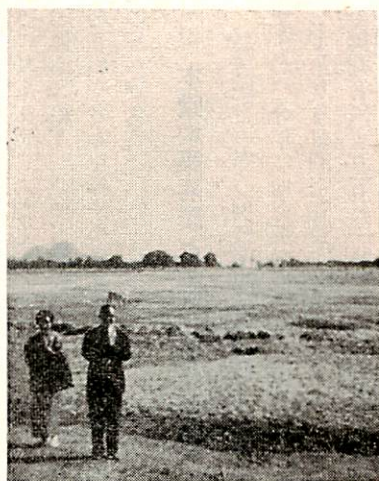
この塔は高さ五十メートル位で、積尊入滅後数百年後に建てられたものですが、回教徒の迫害の折、仏教徒が之を土で埋めて逃げたので、破壊を免れました。所が今から百年位前に之を掘り出して、往時の偉様そのままを目のあたり見ることが出来る様になった事は、感激の外ありません。

ガヤの塔目近にそびえ東天燃ゆ（平沼とみ子）

此の塔の周囲の塀に十六の菊の花のような紋があります。之が仏教と共に比叡山に伝わり、日本皇室の御紋章となつたと云う話をききました。私共



ブツダガヤ大塔内御本尊積迦像の前にて



ニレンゼン河畔

一行は塔内の積迦尊像の前に各自日本からもつてきた色々の供物を供えて一同線香を持ち心経を唱えながら尊像のまわりをいく回も廻り、感激の涙を流しつつ礼拝しました。

ニレンゼン河

ブダガヤの塔からほど近い所に積尊が苦行のあげく身を清められたと云うニレンゼン河があります。今は雨季以外は水がなくてきれいに光る砂原でした。皆記念にその砂を少しづつ袋に入れて持

ち帰りました。

座禪僧塔に向かえり星光る (平沼とみ子)

朝の冷え身の引きしまるガヤ聖地 (ク)

春の名栗溪谷と鳥居観音

春と云えば何となく人の心も浮き立つ良い季節である。＃山笑う中に残るやむつの雪＃と誰かがよんだ俳句は名栗の春の山景をとらえて詠んだのである。小鳥の笛鳴きから、土手の小径のかたわらの土を割ってむらさきがかつたみどりの苞につつまれて路のとうがのぞいているのも春のたのしい風物である。

名栗川原に下り立てば猫柳の銀ねずみいろのつぼみが陽にかがやいて川面にかげをうつしてゐる。名栗川の水は川底の石をすかして澄んでゐる。その底の石の下にはかじかと云う小さな魚が産卵期を少し過ぎて夫婦仲よくくらししている。

山で一番早く花が見られるのはつつじである。あたり一面水鳥の胸毛のような若芽が萌える中に赤紫のつつじが常緑の間に咲いているのはまさに

一幅の絵である。鳥居観音の境内に入ればそのつつじが今では数千株が山道に咲き競い、松の大樹の根元にも見晴台の岩角にも咲き盛って朝日に又夕陽に燃えるように山を明るくしてくれるのも春である。

このあたりから山の尾根に通ずる道はいくつもあり、又他所からも鳥居観音へ来られる道でもある。山の尾根に登ればさかりにわらびが萌えていてそれを手折るのもたのしいものである。＃松の根に腰おろしけり春の風＃この句は多分わらびとりにも来てよんだものだろう。＃観音の慈顔春陽にふれ給う＃いつも慈顔でおあす観音も春は一そうおやさしく拝すのである。そして春は本当にのどかである。

本堂増築落慶と千手観音開眼式

鳥居観音の春の例祭は四月十七日となっており、今年も今年も地方選挙の閑係とお導師に御願ひしてあります曹洞宗管長高階瓏仙猊下(九十二才)の御都合により五月一日二日の二日間に挙行する

事にいたしました。

今回は本堂増築の落慶と十一面千手千眼観世音菩薩（総高四、三米）の開眼式等を取り行ひ度いと存じます。

時間は大体左の通りです。

五月一日

午前十時三十分より（一時間）鳥居観音本堂に於て開眼及落慶
同 十一時三十分迄 法要

此の間軽食

午後一時より（三十分間）三蔵塔に於て法
同 一時三十分迄 要

此の間白雲山散策

午後二時三十分より（一時間半間）観世音セン
同 四時迄 ターに於て高階瓏仙貌下の御法話

其の後 講中及招待者の懇親会

五月二日

午前十時三十分より（一時間）本堂に於て法要
同 十一時三十分迄

其の後の時間割は前日の通り举行

尚兩日共御詠歌、稚児、花火、演芸等が催されます。

時恰もつつじ等が満開で新緑も亦見頃と思いますので、何卒御誘い合せの上右法要御法話に御参列賜り度又白雲山の春陽を満喫下さいませます様御願ひ申し上げます。

俳句「埼玉俳句名鑑」より

ハンターゆく鉄砲祭に犬もつれ 秩父市 銘 仙

早春の水面光りて静かなり 飯能市 紫 艶

花吹雪浴ひて石仏ひねもす合掌 浦和市 陽 谷

確とふむ土に希望の年立ちぬ 蕨市 青 我

妻久に白紛匂う松の内 岩槻市 吟 星

瓜紅にほしき色もち梅開く 川口市 杏 雨

げんげ田をすき起しいてうれいなし

大宮市 源 三

尾根近く一坊を置き山眠る 羽生市 あつし

信濃なる松本わさび届きけり 大宮市 かほる

児の眠りいる間かさこそ雛かざる 名栗村 醉 亭

初旅は信濃路にして雪ふかし 名栗村 千 昭

初句会卓にこぼれし灯を愛す 行田市 白 砂

御手洗や神へ一途の水割る

鳩ヶ谷市 薫雄

沈まんとする陽の眩し羽子返す

狭山市 清風

迎春という喜びにいて愉し

狭山市 一嵐

描き馴れし眉を一気に初鏡

鳩ヶ谷市 悦子

初髪やみ春の駒のかんざしを

飯能市 五郎

いづくにか梅の匂いて夜の暇

春日部市 忠人

濯ぎする妻も小唄や水温む

川越市 春日

小さな手に頬をふくらませ蜜柑むく

深谷市 化一

伊勢の海の魚介豊かにして穀雨

浦和市 かな女

慈悲心鳥鳴きわたりつつ山暮るる

加須市 迷子

御願い（鳥居観音事務局宛）

このしおりにのせるため俳句、短歌、何れで

もどしどし御投稿ください。

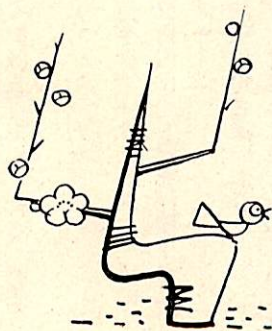
結成講中の追加

埼玉不二サッシ講中 講元 荒川安正 三六名

副講元 野口重雄

鳥居観音講現況報告

- 一、結成数 一五講中 講員 一、二五九名
一、結成予定数 一八講中 講員 一、七五〇名



白雲山鳥居觀音案内圖
觀世音センター



秋葉山

面白岩

觀音滝

琴比羅神社

三蔵塔

蛇の目拳四阿

梅曉之臺

栴月橋

壇輪型四阿

本堂

昌居文庫

名葉川

